

鴨池コミュニティ

公益財団法人 慈愛会

じあいコミュニティ 掲示板

健康・福祉・文化・学び × みとめあい、かかわりあい、ささえあう町 鴨池 ~地域の人々と心をつなぐさともいけ~

令和4年6月 鴨池校区コミュニティ協議会と(公財)慈愛会は包括連携協定を締結しました。

公益財団法人 慈愛会 今村総合病院 掲示板

今村総合病院HPはコチラ▶

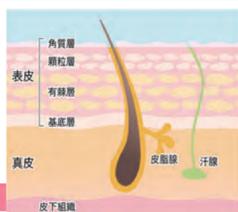


知っておきたい 皮膚がんの話 Q&A

皮膚は、健康状態を映し出す「体の鏡」ともいわれています。皮膚がんは、体の外に現れるため、目で見て気づきやすいがんの一つです。しかし、ホクロや湿疹、イボと見分けがつきにくく、自己判断で様子を見てしまうことも少なくありません。本特集では、今村総合病院皮膚科主任部長・米倉健太郎医師が、皮膚がんの基礎知識や早期発見のポイントをQ&A形式で解説します。気になる皮膚の変化があれば、どうぞお気軽にご相談ください。

Q1 皮膚がんって一体なに？

A 皮膚は、さまざまな細胞によって作られており、また汗腺や、皮脂腺、毛などの器官も存在しています。これらを構成している細胞のどれかがガンになったもので、たくさん種類があります。



Q2 皮膚がんの種類とそれぞれの特徴はありますか？

A ①「基底細胞がん」
皮膚がんの中で最も多いのは「基底細胞がん」で、紫外線などが誘因となります。中年以降に顔にできやすく、その中でも目や鼻の周りなど正中部に多くみられます。転移は稀ですが、少しずつ周りや深部に広がります。

②「有棘細胞がん」
2番目に多いのは「有棘細胞がん」で、これも紫外線が原因になることが多く、高齢者の露光部(日光にさらされる部位、顔や耳たぶ、手の甲、腕の外側など)にできます。進行するとリンパ節や肺などに転移することもあります。有棘細胞がんの状態になる前に「日光角化症」という皮膚表面だけのがん(表皮内がん)ができることがあり、この段階で診断できれば、軟膏でも治療できる場合があります。

③「悪性黒色腫」
悪性黒色腫はいわゆる「ホクロのがん」と呼ばれるもので、初期にはホクロとの区別が難しいものもあります。日本人では手や足などにできることが多いですが、その他の部位にできることもあります。転移しやすく、悪性度が高いので早期発見が重要です。

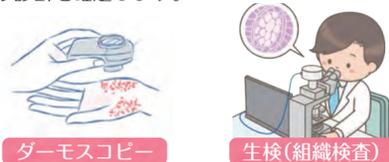
そのほか、ボーエン病、乳房外パジェット病、血管肉腫、汗腺がん、脂腺がんなど皮膚に存在する様々な細胞から発生するがんがあります。また、これらの他に、皮膚のリンパ腫もあります。

Q3 皮膚がんと間違えやすい病気はありますか？

A 脂漏性角化症(いわゆる「老人性のイボ」)やホクロは、基底細胞がんや悪性黒色腫との見分けが難しい場合があります。有棘細胞がんも脂漏性角化症や、イボと似たような見た目になることがあります。そのほか、日光角化症や、ボーエン病、乳房外パジェット病、皮膚リンパ腫でも初期には湿疹や白癬(タムシ)のような症状(少し赤みがあって、カサカサしている)がよくみられます。

Q4 皮膚がんの診断方法はどのような方法がありますか？

A 基底細胞がんや悪性黒色腫は、ダーモスコピーと言って、特殊な拡大鏡で観察する方法で、特有な所見により診断できることがあります。そのほかの皮膚がんを含め、最終的には生検(組織検査)により診断を確定します。



Q5 当院で出来る皮膚がんの治療方法はどのような方法がありますか？

A 皮膚がんの治療の基本である手術はもちろん、化学療法(抗がん剤治療)、放射線治療などを行っています。当院には、トモセラピー、ガンナイフといういずれも最先端の放射線治療装置があり、対象の患者さんが県内各地から紹介されています。皮膚リンパ腫の治療にも力を入れており、化学療法も多数行っているほか、各種の紫外線治療器も揃っており、症状に応じた治療を行っています。



Q6 皮膚がんを見逃さないために出来るセルフチェック法はありますか？

A ・新しくできたホクロ。
・元からあったホクロが大きくなったり、色にムラができたり、ただれてくる。
・赤い斑や茶色い斑がずっと同じところあって治らない。
・硬い盛り上がりが出て、汁が出る。
・ホクロから血が出る。

などの症状は皮膚がんかもしれません。このような症状があれば、早めに皮膚科を受診しましょう。

今村総合病院 皮膚科 主任部長 **米倉健太郎 医師**

皮膚は外から見えるので、皮膚がんは早期発見が可能です。普段から入浴時などに全身の皮膚を観察して、変化を見逃さないようにしましょう。心配なことがあれば、間違ってもよいので(むしろ、がんであればよいことです!)皮膚科専門医に相談して下さい。



ありがとう 鴨池生協クリニック

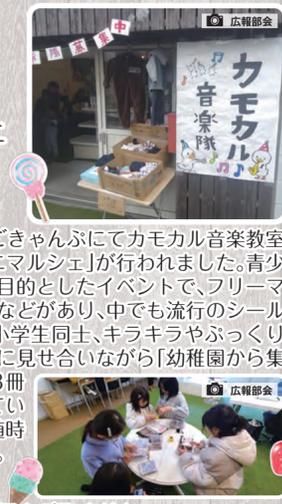
鴨池新町にある「鴨池生協クリニック」が令和8年3月末で閉院します。医師不足と、建物の老朽化によるもので、およそ65年の歴史に幕を下ろします。昭和36年に前身である三和町の「南地区診療所」が開設され、昭和49年に「みなみ診療所」となり、昭和61年には現在の場所で「鴨池生協クリニック」として診療を始めました。校区内ではお世話になった方も多くはないでしょうか。我が家も子ども達の幼少期から、事あるごとに診て頂きました。内科や小児科の外来診療の他、デイケアや鴨かもサロンなどの健康まちづくり活動でも地域の皆さんの居場所として長年利用されてきました。今回の閉院に際し、定期通所の約700名の患者さんには随時近隣の病院等を紹介する予定です。紫原生協クリニックへはバスの運行も行うとのこと。今回お話を伺った事務長の内門さん、健康まちづくり部の片平さんは閉院する寂しさと共に、地域の皆様への感謝を言葉にされ、最後まで患者様のために親切でよい医療・介護を行いたいと語っていただきました。長い間、地域のみさんの健康を守ってくださりありがとうございました。(広報部会)



第1回 カモカル ミニマルシェ 開催

1月12日(月)まさごきょうにてカモカル音楽教室主催の「カモカルミニマルシェ」が行われました。青少年の文化活動推進を目的としたイベントで、フリーマーケットやくじ引きなどがあり、中でも流行のシール交換コーナーでは、小学生同士、キラキラやぶっくりしたシールをお互いに見せ合いながら「幼稚園から集めてるよ!」「これで3冊目!」と盛り上がっていました。活動支援は随時募集中とのことです。(広報部会)

詳しくは、6面の告知欄をご覧ください。



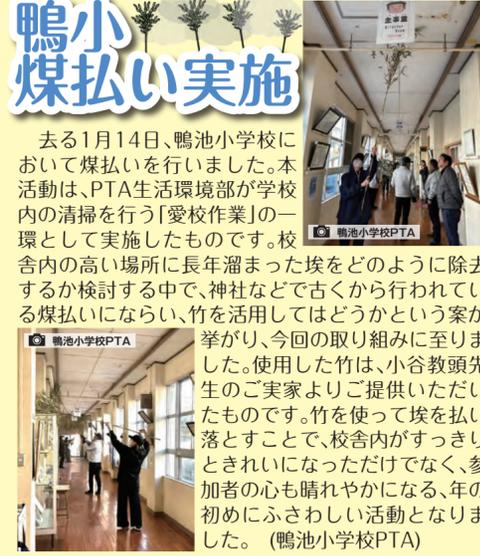
竹工作教室 竹細工にチャレンジ!

1月18日(日)真砂福祉館で竹細工教室を開催しました。まずは作品を作るために竹を縦や横にカットするわけですが、参加者の大方はどんな道具をどう使うかわからない。シニアの一人が、普通のカッターと小さな金づちで、トントンとカッターを下ろしながら縦に竹を割ると、見事に割れてゆくを見て、子どもより親御さんが、「あ〜、なるほど!」と、感嘆の声をあげたかと思うと、自ら真似て、竹をカット。縦にサツ割れるのが心地よいのか思わず笑みがこぼれる。この動作が合図になり、細工は進んでいきました。一輪挿し、貯金箱、竹とドングリのコラボの人形飾りなどの作品ができあがり、早速、一輪挿しに椿を生けたり、切っただけの竹に、菜の花を挿したり、輪切りにした竹に花を置いたりしていました。竹の心地よい香りや竹の表皮をやすりて削った時の粉の緑に包まれた参加者たちは竹林にワープしたようなひと時でした。(ディスカバーかもいけ 松山)



鴨小 煤払い実施

去る1月14日、鴨池小学校において煤払いを行いました。本活動は、PTA生活環境部が学校内の清掃を行う「愛校作業」の一環として実施したものです。校舎内の高い場所に長年溜まった埃をどのように除去するか検討する中で、神社などで古くから行われている煤払いにちなみ、竹を活用してはどうかという案が挙がり、今回の取り組みに至りました。使用した竹は、小谷教頭先生のご実家よりご提供いただいたものです。竹を使って埃を払い落とすことで、校舎内がすっきりときれいになっただけでなく、参加者の心も晴れやかなる、年の初めにふさわしい活動となりました。(鴨池小学校PTA)



子供達のクリスマス会

12月20日土曜日、真砂6区ではこれまでになかった新たな試みとして、子供達のふれあいを目的に「子供達のクリスマス会」を開催しました。「まずはやってみよう。」「子供達の笑顔や喜んでくれる姿をみたい。」それだけの思いで試行錯誤しながら準備を始め、親御さんやいろんな方々の協力を頂いてなんとか開催まで漕ぎ着けました。クリスマス会当日は、寒くもなく、子供達がいろんなゲームに歓声をあげながら、とても楽しんでいました。お父さん、お母さんも喜んでくださったのではないかと、思っています。帰りに、「また来年開催される時はお手伝い出来る事があったら声をかけてください。」との嬉しいお言葉を頂けた事が私にとっては、一番の喜びでした。ここからまた人との繋がりが出来て行く事が嬉しく、まずは一歩を踏み出すことの大切さを感じた一日となりました。(真砂6区町内会会計 濱本千穂子)

